

自然災害との共生と 豊穡の大地の物語

栗原市は、宮城県の北部に位置し、県内最大の面積を有するまちで、栗駒山を源とする清水が複数の河川と畑を潤し、古来より人々の生活に繁栄をもたらしてきました。

宮城・岩手・秋田の3県にまたがる栗駒山の秋の紅葉は「神の絨毯」とも称され、紅葉シーズンには大勢の登山客でにぎわいます。



「神の絨毯」と称される秋の栗駒山

子育てにちょうどいい 田舎暮らし

本市は、平成17年の町村合併による誕生以来、人口や出生者数の減少が大きな課題となっています。

これまでに、他の自治体に先駆け、18歳までの医療費や幼稚園給食費、2人目以降の保育所保育料の無償化、子どもの任意予防接種費用の助成の充実など、手厚い子育て支援に取り組んできました。本年度からは、市立小中学校に



子育て支援で移住をPR

「子育て支援に特効薬なし」といわれますが、本年1月に「産婦人科及び小児科医院開設等助成事業」を活用しやすく見直した結果、早速、7月に小児科のクリニックが新たに開院され、市民のみならずから

通学する児童生徒の学校給食費の無償化や、妊産婦の通院に係る経済的負担を軽減するための「妊産婦健康診査通院支援事業」、特定不妊治療の自己負担額を助成する「幸せを運ぶ こうのとり応援事業」、市立病院の内科医を中心に福祉と教育とが連携し、自閉症や発達障害、不登校や引きこもりの未然防止など子どもたちの包括的支援を行う「地域子ども子育て支援事業（栗原モデル）」の構築など、新たな取り組みを始めています。

栗駒山麓ジオパーク

多くの喜びや安堵の声が寄せられるなど、少しずつ市の取り組みに成果が出ています。これからも、市民が地域で安心して子どもを産み、子育てができる環境づくりに取り組んでまいります。

平成20年6月14日、自然豊かな栗原市を突如襲った岩手・宮城内陸地震は、本市の象徴である栗駒山に大きな爪痕を残しました。

多くの地すべりにより姿を変えた山々、破壊された森、寸断された道路、何より尊い人命を失い、あらゆる生活の基盤を一瞬にして変貌させた地震でしたが、全国の皆さまから温かいご支援をいただきました。復興を成し遂げることができました。

本市は、この震災で生じた荒砥沢地すべりなど、栗駒山麓崩落地の地形・景観を貴重な資源と位置付け後世に継承し、防災教育や学術研究、観光などさまざまな形で



日本最大級の地すべり「荒砥沢地すべり」

りました。
ジオガイドを
中心に、地域の
成り立ちや過去
の自然災害など
を学ぶジオパー
ク学習、大地に
触れて感じるジ
オツアーとそれ
を楽しむための
認定商品など、
さまざまな取り
組みを実践した



ジオガイドによる地すべりのメカニズム解説

活動に取り組み中
で、地域のあらゆる
のが地震や洪水、火山
などの自然災害と深い
関連があり、長い年月
をかけて共存してきた
結果、今の豊穡の大地
が築きあげられたこと
を改めて知ることとな
りました。

活用して地域活性化につなげよう
と、ジオパーク活動に取り組ん
できました。

活動は、震災の出来事を記憶や
記録にしつかりと残すこと、そし
て、それを伝えていく中心的役割
を担うジオガイドを育成すること
から始まりました。

結果、平成27年に栗駒山麓ジオ
パークが日本ジオパークに認定さ
れました。

認定を機にジオガイドも増え、
市内外の学校によるジオパーク学
習の機会が広がりました。

平成31年4月には、旧校舎を活
用した「栗駒山麓ジオパークビジ
ターセンター」がオープンし、ジ
オパークの旅の出发点として、そ
してジオパークを五感で体感でき
る施設として多くの方にご来館い
ただき、間もなく7万人の入館者
数を超えようとしています。

ふりかえる、つたえる、 つなぐ

岩手・宮城内陸地震から15年の
節目である本年6月、震災復興祈
念シンポジウムを開催し、震災の
出来事をふりかえり、つたえ、そ
して後世につないでいくことの大
切さを再認識しました。

さらに、これまで入林が規制さ
れていた、栗駒山麓ジオパークの
中心的な見どころであり地質サイ
トでもある荒砥沢地すべりの中心
部への入林が、条件付きで可能と
なりました。これにより、震災の爪
痕を間近に見ることができ、より

リアルに体感し、山地災害の現象
を自分事として捉えていただける
ような案内が可能となりました。

本年は、4年に1度の日本ジオ
パークの再認定の年です。栗駒山
麓ジオパークの充実と持続可能な
運営について、これまで多くの
方々に関わっていただきながら前
進してきました。この再認定を機
にジオパークの取り組みをさらに
進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 805.00 km²
- ◆ 人口 6万2371人
- ◆ 世帯数 2万4887世帯

〔将来都市像〕市民が創る くらしたい
栗原

〔まちの特徴〕栗駒山をはじめとする
美しい山々や、その麓に広がる田園地
帯、迫川や伊豆沼・内沼などの豊かな
自然に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、築
館町、若柳町、栗駒町、高清水町、一



栗原市長
佐藤 智

「市民が創る くらしたい栗原」

令和4年3月に策定した第2次
栗原市総合計画後期基本計画で、
今後の市政運営の基本理念として
掲げた「市民が創る くらしたい栗
原」の実現、また、私のモットーであ
る「明日を担うこともたちに『豊か
な美しいくらはら』を引き継ぐ」た
め、これからも、市民のみなさんと
共に歩んでまいりたいと思います。



〔観光〕国定公園栗駒山、世界谷地、
伊豆沼・内沼、山王史跡公園、浅布溪谷、
細倉メインパーク、くりでんミュージアム
〔イベント〕栗原市民まつり、くりこ
ま山車まつり、つきだて薬師まつり、
栗原ハーフマラソン大会

〔特産品〕栗駒耕英産イワナ、栗原産
仙台牛、そば・はっと、正藍染め、若
柳地織り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「住みつづけたいまち 子育てしたいまち さかど」の実現に向けて

坂戸市は、埼玉県ほぼ中央に位置し、関越自動車道の坂戸西スマートIC、首都圏中央連絡道の坂戸ICをはじめ、東武東上線および東武越生線に四つの駅を有する、利便性の高いまちです。

その一方で、北端には越辺川が、中央には関東有数の清流である高麗川が流れ、田園風景や里山など、豊かな緑と水に恵まれた自然豊かな環境を

残す、都市環境と自然環境が調和したまちでもあります。

全国初！坂戸市ミツバチプロジェクト

本市では、平成25年度から全国初となる、自治体によるミツバチの飼育を始めました。

なぜ自治体が養蜂をやる必要があるのかとの意見もいただきましたが、その理由は、ミツバチが自然を豊かにしてくれる存在だからです。



自然豊かな坂戸市



養蜂の様子

ミツバチは環境の変化にとっても敏感な生き物であり、ミツバチが元気に飛び回るまちは、それだけ豊かで健全な自然環境である証といえます。ミツバチと住める環境を維持することが、私たちを取り巻く自然環境を豊かにする

ことにつながると考えています。ミツバチが暮らしやすい環境は、そこに住む人々にとっても暮らしやすい環境といえるはずです。

「ミツバチと共生できる環境づくり」をメインテーマに、自然を豊かにしてくれるミツバチの輪を広め、自然環境と共生する意識を育み、健全で恵み豊かな自然を未来へ引き継げるよう、環境づくりを進めてまいります。

また、養蜂家の育成と蜜源地として遊休地の活用に取り組み、市内金融機関の協力を得て、市内飲食店や養蜂家とマッチングするなど、坂戸市産ハチミツの利用拡大と地元産業の振興を図っています。

県内有数のよさこい祭りに成長

坂戸よさこいは、平成13年に市



坂戸よさこい

制施行25周年を記念して始まった祭りであり、誰もが参加でき、地域のつながりや絆をより強くしようという思いから生まれました。多くの皆さまのご支援により、県内有数のよさこい祭りに成長し、本市が「よさこいのまち」として周知され、地域再生の原動力として、大きな役割を果たしています。近年、2019年の台風被害や新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、4年続けての中止を余儀なくされましたが、本年は

10月8日に開催いたしますので、多くの方に足を運んでいただきたいと思います。

5年ぶりの開催となるため、参加団体数が最盛期より少なめですが、市が一体となって準備を進めています。

坂戸よさこいは市民に愛され、誰もが参加でき楽しめるお祭りです。坂戸市から全国へ元気を届ける祭りとなるよう、これからも取り組んでまいります。

日本一おいしい給食を無償で提供

本市では「子は宝」であると考え、子どもたちに向けたさまざまな



給食の風景

な施策を実施しておりますが、「食育」は特に重要であると考えております。

市内の小学校12校、中学校7校の全校で自校調理方式を採用し、地元の安心・安全な食材を活用しながら、毎日出来たてのおいしい給食を子どもたちに食べてもらっています。保育園についても、公立5園、私立8園が自園調理方式で安心・安全な給食を提供しています。

また、保護者の経済的負担を軽減し、児童生徒の健やかな成長を支えるため、本年度から埼玉県内の市では初めて、小中学校の給食費無償化を実施しています。

これからも、子どもたちには日本一おいしい給食を食べて、正しい味覚を身に付け、健やかに成長してほしいと願っています。

坂戸で育った子どもたちに、坂戸で子育てをしてほしい

坂戸で育った子どもたちが、将来結婚して家庭を持つときに、坂戸に戻ってきて実家の近くで子育てをする、私はそんなまちが理想だと思っています。

若い夫婦は実家を頼りにできま

すし、その両親も近くに子どもや孫が住んでいれば生きがいが増します。子どもを巡る痛ましい事件が後を絶ちませんが、頼れる家族が近くにいれば防ぐことができたと事例も多いのではないのでしょうか。近居を推進する施策として、親世代と市内近居するために子世代が住宅を取得する場合や、住宅の改修や建て替えをして親と同居する場合には、費用の一部を補助する取り組みを行っています。

プロフィール

- ◆ 面積 41.02km²
- ◆ 人口 9万9491人
- ◆ 世帯数 4万7798世帯

〔将来像〕住みつづけたいまち 子育てしたいまち さかど

〔まちの特徴〕埼玉県のほぼ中央に位置し、鉄道、高速道路の交通網に恵まれ、関東有数の清流である高麗川など自然豊かな環境を残す、都市環境と自然環境が調和したまち



坂戸市長
石川 清



また、全国的にもまれな施策として、中学生までの子どもと高齢者にインフルエンザワクチン接種の無償化を行っています。本市は、目指す将来像を「住みつづけたいまち 子育てしたいまち さかど」と掲げております。世代を超えた多くの人が本市の魅力を感じ、坂戸に來たい、住みつづけたいと思っていただけけることを目指し、これからも精いっぱい取り組んでまいります。

〔特産品〕はちみつ
〔観光〕五千頭の龍が昇る聖天宮、明治なるほどファクトリー坂戸、浅羽ピオトーブ

〔イベント〕坂戸よさこい、坂戸にっさい桜まつり、釈迦降誕祭、坂戸神社八坂祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

なかなかのまちなか 藤井寺

藤井寺市は、大阪府内で1番、全国でも5番目に面積が小さな市でありながら、大阪都心部の南東に位置し、交通の利便性が高く、コンパクトで環境の良い住宅都市として発展してきました。

また、市内には、古墳や国宝・重要文化財など豊かな歴史資産が

広く存在し、新しさと古い文化が融合する「なかなかのまちなか」です。

人々の暮らしと共にある世界遺産

本市と羽曳野市にかけて巨大な前方後円墳が集中して造られ



桜と菜の花が咲く津堂城山古墳

た古市古墳群は、堺市の百舌鳥古墳群と共に、令和元年に世界文化遺産に登録され、大阪府初の世界遺産となりました。本市には、外から眺めるだけでなく、敷地に立ち入ることができる古墳が多くあり、毎日の散歩で木々の四季の移り変わりを楽しまる人や、元気に駆け回る子どもたち、週末にはレジャーシートを敷いてお弁当を広げる人の姿なども見られます。

古市古墳群の中でも初期に造られた大型前方後円墳「津堂城山古墳」では、まちの魅力を再発見するマルシェイベント「ハレマチビヨリ」が毎年開催され、市内外から多くの人が訪れ、大変にぎわいます。

そのほかにも、墳丘に登って市内を見渡せる古墳、高速道路の高架下にある古墳、駅の目の前にあ

る古墳など、魅力的で個性豊かな古墳がたくさんありますので、ぜひ古墳めぐりを堪能してみてください。

魅力あるまちづくり

住宅街を歩くと、突如現れる一風変わったデザインの建物。これは、生涯学習機能や公民館機能をもつ教育施設「アイセルシユラホール」です。

本市から出土した古墳築造の際に用いられた、古代の木ヅリ「修羅」と船形埴輪をモチーフとした外観から、本市のシンボル施設として、長年にわたって存在感を示しています。

古市古墳群の周遊ルート上にあるこの施設を、現在、物販や喫茶スペース、古墳ミュージアムなどの観光拠点機能を持った施設とし



アイセルシユラホール

て、リニューアルする計画を進めています。2025年大阪・関西万博の開催を見据え、ツアーやイベントの開催を働きかけ、国内外から多くの観光客に訪れてもらえるよう、まちの魅力を発信していきます。

本市では、こうしたまちの魅力やイベントなどの情報発信にSNSを活用しています。特に市LINE公式アカウントでは、各種情報を、全てのトピックが一目で確認できるカード形式で配信しています。情報が見やすく先進的との



境内を電車が走ること有名な澤田八幡神社

元年より、さまざまな年代の市民や団体の皆さんと意見を交換する場「タウンミーティング」を実施し、市民の視点によるさまざまな気付きや発想を活発に話し合い、順次その具体化や

魅力的で持続可能なまちづくりを実現するためには、行政と共に、市民、事業者、専門家、NPO法人などが協力し、共通の目標や価値観を共有し、共同で課題を解決する「共創」が必要であると考

共通の目標や価値観を共有し、共同で課題を解決する「共創」

えていきます。そのため、令和



LINEの配信画面

子どもたちが自分らしく人生を切り拓き、それぞれが思い描く幸せを実現していく力を育てるためには、「親が子どもを育てることを支援する」という「子育て」支援に加え、子ども自身の育つ力

予算化を進めてきました。さらに、さまざまな実証実験の先進都市として「藤井寺モデル」を構築し、全国に向け発信・波及させていくことで、持続可能なまち・社会の実現を目指すため、公民連携窓口「企業パートナーシップデスク」を開設しました。これまで、第一生命保険株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社をはじめ、10社との包括連携協定を行っています。

それ以外にも、産官学連携事業として、大阪大学にご協力いただき、生活習慣病リスクのある方への特定保健指導や、糖尿病性腎症のフォローアップに加えて、市民全体の健康意識向上を目指し、各種啓発プログラムを実施する「ヘルスラボrfinder」を実施しています。

子どもが主役、笑顔があふれる楽しいまち

を見守り応援する、支援の対象を「子どもそのもの」とした「子育て」支援が必要であると私は考えています。



墳丘の上での世界遺産学習のフィールドワーク

市職員や観光ボランティアの皆さんによる郷土の歴史資産を知ってもらうための「世界遺産学習」を行っています。

プロフィール

- ◆ 面積 8・89 km²
- ◆ 人口 6万2832人
- ◆ 世帯数 2万9902世帯



藤井寺市長 岡田一樹

〔将来都市像〕つどいつながり育つまちふじいでら

〔まちの特徴〕コンパクトな市域に、多様な歴史資産がたくさんある、交通の発達した利便性の高い住宅都市

〔特産品〕道明寺糰い、いちじく、クラ



フットボール、クラフトコーラ、藤れんこん、バジルソース、美陵鰻

〔観光〕古市古墳群、葛井寺、道明寺、道明寺天満宮をはじめとする神社仏閣

〔イベント〕ふじいでら市民まつり、道明寺歴史まつり、Happy Halloween

三 藤井寺（テラハコ）、ハレマチビヨリ、葛井寺千日参り、道明寺天満宮初天神うそかえ祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

豊かな自然と最新技術が共生する「リッチ・ローカル」なまちづくり

佐賀市公式スーパーアプリが1カ月で2万ダウンロード

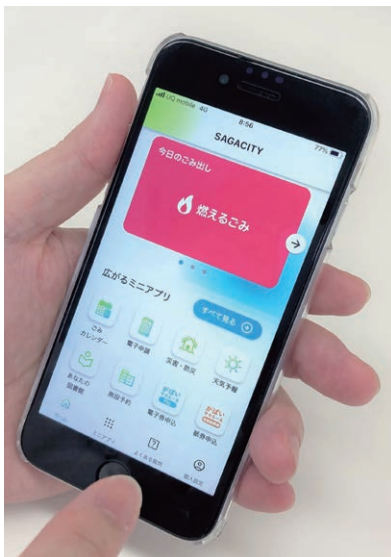
佐賀市公式スーパーアプリが、本格稼働しました。スーパーアプリは、一つのアプリだけで、生活



佐賀国際バルーンフェスタ

に必要なきさまざまな機能が、まとめて手に入るアプリです。これまではスマホで一つのサービスを受けるには、一つずつアプリを入れて、別々に会員登録が必要でした。その不便さを一気に解決するものとして、海外で急速に普及しているのが、スーパーアプリです。今回、佐賀市から「日本初」、地域みんなで創るスーパーアプリが誕生しました。

このスーパーアプリは、6月11日に本格的に運用を開始しましたが、約1カ月で、ダウンロードが2万人を超えました。今後、新しい機能を充実させていき、さらに利用者を伸ばしていきたいと考えています。



佐賀市公式スーパーアプリ

また、本市は、デジタル田園都市国家構想交付金の中の、タイプ2といわれる「全国モデルとなる取り組み」に、九州で唯一、採択を受けました。多様なプレーヤーが参加できて、そこに「経済」が生まれ、持続可能な仕組みになっている点が評価されたものです。

スローガン「動きます、佐賀市。」

本市は、「動きます、佐賀市。」

をスローガンとして掲げていますが、これには、前例にとらわれず、新しい取り組みについても積極的に動く、という思いを込めています。個別最適が、全体最適とはならないということが問々あります。行政の縦割りがその典型であり、組織の論理を超えて、横串で通すことが重要です。今回の取り組みに関しても同様で、アプリなどの各種サービスも、受け手からしたらワンストップ化されていた方が便利なので、できる限り簡単に、横串で通したいと思いました。

本市の良さは、地域の絆だと思っています。毎年9万人が河川清掃に参加していますし、佐賀県は消防団の組織率が20年連続で日本一です。地域の絆がしっかりしている点は先人たちが築いてきたものですが、課題は持続性です。デジタルに明るい若い世代には、便利なデジタル機能によって、参加のハードルが下げられるのではないかと思っています。佐賀市公式スーパーアプリの誕生で、本市



佐賀バルナーズ B2年間優勝

©B.LEAGUE

「佐賀バルナーズ」は、本市をホームタウンとするプロバスケットボールチームです。この佐賀バルナーズが、23-24シーズンから、B1に初昇格して、トップリーグで活動することになりました。チーム名の「バルナーズ」は、熱気球を表す「バルーン」からとったものです。本市は、アジア最大の熱気球大会「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」を毎年開催しており、期間中80万人を超える観客が会場を訪れており、バルーンの町として、世界的に有名です。本市では、佐賀バルナーズをチームが発足した平成30年からずっと応援してきました。

プロバスケットボールチーム「佐賀バルナーズ」がB1昇格

が日本一便利なまちになるだけでなく、次世代につなぐ「日本一の幸せ」を実現していきたいと思

して、世界的に有名です。本市では、佐賀バルナーズをチームが発足した平成30年からずっと応援してきました。

この佐賀バルナーズが、本年5月にB2の西地区首位でプレオフに進出し、そのプレオフを6連勝して、B1昇格とB2の年間優勝を達成しました。プレオフは、完成したばかりのSAGAアリーナで行われ、勝つたびに入場者数が増えていきました。会場もまちなも熱狂して、優勝を決めた最後の試合は、B2史上最多の7532人を記録し、過去の最多入場者数(5443人)を大幅に更新しました。

アリーナと佐賀バルナーズを核としたまちづくり

5月にアリーナがオープンして、新時代のエンターテインメント空間が、ここ佐賀から生まれました。アリーナを核としたスポーツビジネスが、その中心になっていくと思います。県外はもちろん、アジアなど国外からも多くの人が佐賀を訪れ、自然や食、そして人の素晴らしさに触れ、観光や

スポーツツーリズムにつながっていきます。

Bリーグのプレオフが終了した後の6月から7月にかけて、宇野昌磨選手など国内のトップ選手が出演したアイスショーや、BIBIや、NiziU、ユースミンなど、これまでに佐賀では開催できなかったライブコンサートが行われました。この後も、さまざまなイベントや学

プロフィール

- ◆ 面積 431.84km²
- ◆ 人口 22万8416人
- ◆ 世帯数 10万3841世帯

〔将来都市像〕豊かな自然とこどもの笑顔が輝くまち さが

〔まちの特徴〕北に脊振山地を擁し、南は有明海に面し、中央部は佐賀平野が広がる、豊かな自然と歴史のまち

〔市町村合併〕平成17年10月、佐賀市、三瀬村、富士町、大和町、諸富町の5市町村が合併、さらに平成19年10月、川副町、東与賀町、久保田町の3町と合併



佐賀市長 坂井英隆



会などが開かれることになっており、来年末までに100万人の利用者が見込まれています。今後、市外・県外から多くの利用者がアリーナを訪れることが考えられることから、こうした方々の、宿泊・飲食などによる地域経済への波及効果が最大化するよう、都市機能の整備など、まちづくりを進めていきたいと考えています。

〔特産品〕過去20年で日本一19回の「佐賀海苔」と13年連続で特Aを獲得している米「さがびより」

〔観光〕北部山間地は泉質に優れた古湯・熊の川温泉、中心部は幕末維新期に多くの偉人を輩出した佐賀城下

〔イベント〕毎年秋にアジア最大の熱気球大会「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」を開催し、80万人が来場

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。